

別子山公民館 平成30年3月号

別子山地域の未来を考える会経過状況

今年度に入りまして、校区連合自治会長を始めとした地域づくりのメンバーが集結し、別子山地域の明るい将来像を描き作ることを目的に、協議を進めております。当会は、講師に愛媛大学名誉教授でシンクタンク「惣」代表藤目節夫先生をその都度お迎えして会を進めております。

講師の藤目先生は、大学退官時にこれからは「地域づくり論」から「論」を除いた「地域づくり」の実践にかかわりたいという事で、久万高原町に移り住み様々な活動を通して、まちづくりの基本を実践に変えるため移住された方です。久万高原町も中山間地域で過疎化と高齢化が進み、人と人のつながりも弱くなり、コミュニティ活動も元気を感ぜられない等、別子山地域も環境を同じくしていることもあり、一方ならぬ思い入れをいただき様々な指導助言をいただいております。

当会もこれまで4回を数えましたが、藤目講師とはこれまでも地域のサバイバルプラン作成等の繋がりがあり、地域の現状を細かく把握されている事から、藤目講師が考える地域おこし構想に、校区連合自治会が取り組みを進めている活動内容をプラスして、それぞれの項目を、今後どのように展開して行くのが良いのかを考えました。

なかでも、ちょうどこの時期、地域おこし協力隊のメンバーが任期満了を迎えるにあたり、また新しいメンバーを現在募集しておりますが、その募集要項の検討では、「20歳以上の若い人だけでなく、全国に先駆けて定年退職後リタイアした団塊世代を含む実年齢（50代60代）の人材を求めています。あなたがこれまで蓄積された知識や知恵、技術や経験が是非とも必要です。」と、年齢制限を取り払い、試行錯誤しながらも動きを起こすことで、より密度の濃い人材確保につながるものと期待をしております。その他、前回は新居浜南高校ユネスコ部の皆さんをお招きし、歴史を後世に伝える：記憶を紡ぐ事が地域の生命線であることを踏まえ、高齢者への聞き書きの実施についても協議しお願いをすることができました。

今後の取り組みとして、各種プロジェクトの責任者とチームを決定することや別子山ファン倶楽部の結成と活動（プラン作成）について協議することを決定しております。藤目講師からは、次の別子山地域への提言をいただいております。

~~~~~

### ・シンクタンク『惣』代表：愛媛大学名誉教授 理学博士 藤目節夫講師から【地域への提言】

日本中の各地でまちづくり・村おこしが行われているが、それらの成否を決めるのは、他ならぬ地域住民の危機意識、当事者意識である。どんな地域であれ、それは今を生きる人々が構築したものではなく、先人の筆舌に尽くしがたい労苦の遺産として現在に引き継がれているのである。とすれば、現在を生きる我々には、地域を後世に引き継ぐ責務があると言ってよいであろう。

一昨年、地域の皆さんと「別子山サバイバルプラン」を作成したが、文字通りこれは別子山のサバイバル（生き残り）をかけたプランである。このプランが実りある成果を生むか否かは、地域住民が自らの課題としてどれだけ主体的に関わるかにかかっている。地域住民が主体的に行動せずして、他地域からの援助を望むのは筋違いというものであろう。

冷徹に別子山の現実を見るならば、これがサバイバルの最後のチャンスと言っても過言ではない。まちづくりの要諦は、「できることを、一つずつ」である。「考えるだけで歩かない」から「歩きながら考える」に方向転換しよう。

一人の小さな一歩も、みんなが集まれば大きな力になる。“立ち上がれ！ 別子山住民”

## 第1回地域文化の伝承活動

地域の中で、なくなってしまうと困るものや、伝承することが必要なものを皆さんと検討、協議いたしました。



『菊芋料理』



初回という言で、お集まりの皆さんには、自分が思う伝承し無くしてしまっはいいけないものをお考え持ち寄っていただきました。

まづは、まずらしい地域の食材「きくいも」は野生化したものが全国で見られる反面、生鮮食材としてはまだまだメジャーではなく、生鮮品として店頭と並ぶ量は非常に少なく、そのほとんどが健康食品や健康飲料向けに乾燥させたものやそれを粉末にしたものを作る目的で全国各地で栽培されています。別子山でも栽培している人は少なく流通もしていませんが、昔からの芋で、近年血糖値を下げてくれる食品として注目され始めました。

わざわざ試食用として4種の加工品を作って来てくださり、食べてみてみましたが、生の芋でもクセがなくシャキシャキと食感が楽しめましたが、加熱する料理でも美味しいいただきました。種芋を4月ごろ植え、11月に料理教室をすることにしました。

また、昔は広くそばの栽培をしていましたが、今は栽培だけでなく、そば打ちができる人が少なく、伝承する事が必要になりますので、今回は、「そば」を無くさないよう、どう伝承すれば良いのかなどを中心に考えてみることにしました。

# 第51回にい はま春の市民文化祭《美術の部》作品募集

1. 応募方法 市役所・あかがねミュージアム・公民館などにおいてある募集要項をご覧になり、所定の申込書に必要事項を記入の上、ご応募ください。多くの方からの出品をお待ちしております。
2. 期 日 4月7日(土)～4月15日(日) 9:30～17:00
3. 部 門 洋画・書道・絵手紙・日本画・写真・デザイン・版画  
華道・文芸(短歌・俳句・川柳)・工芸(陶芸・美術工芸・彫塑立体)
4. 応募資格 新居浜市内在住者、出身及び市内の職場に勤務している者及び小・中・高校生。  
公民館の文化サークル、市内で開催する文化活動教室等の参加者、及び新居浜文化協会加盟団体の会員。  
華道は文化協会会員に限る。
5. 申 込 4月2日(月)9:45～17:00に、あかがねミュージアム2階の展示室1の受付まで作品申込書を添えてお持ちください。募集要項、作品申込書は市役所5階文化振興課、あかがねミュージアム、市内公民館、図書館、文化協会にあります。なお、作品の展示は各部門の担当が行います。
6. 作品搬出 4月15日(日)15:00～17:00
7. 注意事項 (1) 作品の規格等については募集要項をご覧ください。  
規格外の場合は展示に支障を来すため、受け付けません。  
(2) 作品は自分のものに限りませす。  
(3) 不可抗力による作品の破損、汚損については、責任を負いません。  
(4) 表彰・参加賞等はありません。
8. 展示場所 あかがねミュージアム市民ギャラリー、展示室1、アート工房前
9. 主 催 新居浜市教育委員会



## 「春の全国交通安全運動」実施

期間:4月6日～4月10日までの15日間

本運動は、広く国民に交通安全思想の普及・浸透を図り、交通ルールの遵守と正しい交通マナーの実践を習慣付けるとともに、国民自身による道路交通環境の改善に向けた取組を推進することにより、交通事故防止の徹底を図ることを目的とする。

交通事故死ゼロを目指す日 4月10日(火)

《全国運動の重点》

- (1) 子供と高齢者の安全な通行の確保と高齢運転者の交通事故防止
- (2) 自転車の安全利用の推進
- (3) 全ての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- (4) 飲酒運転の根絶



## 移動図書館『青い鳥号』運行のお知らせ

移動図書館「青い鳥号」が今月も、別子山地区にやってきます。みなさん是非ご利用ください。

3月は、15日(木)に巡回します。

①別子小中学校 13:00～13:40

②別子山支所 13:50～14:30

※本を借りる場合は、「図書館カード」が必要です。

※1人10冊まで借りる事ができます。

その他分からないことは、図書館員におたずねください。



新居浜市立別子銅山記念図書館  
Tel 0897-32-1911

## さくら苗木植栽作業予定【花いっぱい運動】

コミュニティ活性化事業(校区で取り組む花いっぱい運動)の取組といたしまして、今年度も県道沿いに植付作業を予定しておりますので、お手伝いをお願いいたします。

日 時:平成30年3月11日(日)8:30集合

集合場所:別子山公民館

苗木は、公民館近くに仮植をしております。

植付作業に必要なと思われる道具は、お持ちより下さい。

おかげさまで



早くも3月を迎えました。一年は、本当に早いです。

年を重ねるごとにその速さを感じております。

今年の冬は、半端なく寒い日が続きましたが、皆さん体調管理にご苦労されたことと思います。

北陸東北地方では、次から次へと寒波が襲来し、平年の2倍以上の大雪が降るなど、甚大な被害を受けているようです。

「今年の冬は普通の冬ではない」とNASAが発表し、世界的な異常気象をもたらす「エルニーニョ現象」が数年に1度発生すると言われますが、しかもその規模は過去最強クラスだとか。何となくうなずけますね!!世界レベルで異常気象です。

さて、時期的にも桜を連想いたしますが、早々に「花いっぱい運動」の一環で、桜の苗木植栽作業がございます。

申し訳ありませんが、皆さんお手伝いをお願いいたします。気候的にも季節の変わり目で、桜が咲くころといいますが、花冷えと申しますが、一時的に冷え込む時期がございます。

特にインフルエンザも流行っていて、県下全域警報レベルを超えたそうです。

これからもまだまだ注意が必要です、お気を付けてください。

それに加えて、様々な花粉が飛び始める時期でもございますので、身体には十分注意をしてお過ごしください。